科研費

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 5 月 2 日現在

機関番号: 23803

研究種目: 基盤研究(A)(海外学術調查)

研究期間: 2013~2017

課題番号: 25257005

研究課題名(和文)接合領域接近法による東アフリカ牧畜社会における緊急人道支援枠組みのローカライズ

研究課題名(英文)Localization project for new frameworks of humanitarian assistance in East
African pastoral societies

研究代表者

湖中 真哉 (KONAKA, SHINYA)

静岡県立大学・国際関係学部・教授

研究者番号:30275101

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 34,900,000円

研究成果の概要(和文): 本研究は、地域研究の立場から、東アフリカ遊牧社会を対象として、地域研究からみた新しい人道支援の在り方を探求した。普遍性を前提とする人道支援では地域的多様性が顧みられることは稀であったが、本研究では普遍的な人道支援枠組みと遊牧社会の現場でみられる多様な実態との間には大きなギャップがあることを解明した。そして、共同体の外部からもちこまれる保護の領域に対して、共同体レヴェルの見えない保護の領域を、「内的シェルター」として概念化し両者を相補的に組み合わせていく人道支援の新たなアプローチを提唱した。

研究成果の概要(英文): This study explores a new approach to humanitarian assistance in East African pastoral societies, from the viewpoint of area studies. Local specificities have rarely been given sufficient attention by humanitarian organizations that presuppose human universality. This study unveils a large gap between universal humanitarian assistance frameworks and the various realities in the field. Therefore, we conceptualized the invisible protection offered at the community level as an "inner shelter model," an alternative to humanitarian assistance frameworks brought from outside of the community. Based on this conception, we advocate a new approach to humanitarian assistance that combines the inner shelter model with universal frameworks complementarily.

研究分野: 地域研究

キーワード: 牧畜 人道的支援 地域研究 ローカライズ ケニア ウガンダ 接合 遊牧

1.研究開始当初の背景

東アフリカの広大な乾燥地域には、約500万人の牧畜を生業とする諸民族が分布している。これらの牧畜民は、ケニア、エチオピア、ソマリア、南スーダン、タンザニア、ウガンダ等の諸国の周縁部に編入されているが、家畜に基礎を置いた共通性の高い生業・社会・文化体系を形成しており、国境を跨いだ文化圏を形成している。

1983 年のエチオピア飢饉以降、東アフリカ牧畜社会では旱魃救援食の配給等、国際機関による緊急人道支援がもはや常態化していると言っても過言ではない。旱魃や紛争の影響を受けて、多くの牧畜民が難民や国内避難民となり、その一部は、国際機関による支援の対象となっている。

研究代表者は、牧畜社会における国内避難 民を対象とする調査を継続してきた。その過程で地域研究成果に基づいた新たな接近法 (アプローチ)を開拓し、緊急人道支援の枠組みを、牧畜社会の現状に即してローカライズする調整を行うことで地域住民の潜在能力を掘り起こすことが必要と考え、本研究計画を立案するに至った。

2. 研究の目的

東アフリカ牧畜社会は、1980年代以降、度 重なる旱魃と自動小銃を用いた紛争により、 恒常的な危機状態にあり、人道的支援がいわ ば常態化している。本研究では、臨地調査班 が、「スフィア・プロジェクト」を参照基準 として、人道的支援と在来の牧畜文化の「接 合領域」の調整を探求した。そして、その調 査成果を主に国際協力の実務経験者からな る評価班が検証する。さらに、広域比較班が、 狩猟採集民や農耕民とその成果を比較する。 最終的に、総合的地域研究の立場から、人類 普遍の前提に立つ緊急人道支援枠組みを、牧 畜社会の実状に即したものにローカライズ することで、地域の潜在能力を発掘し、援助 依存から脱する道を探求する。研究成果は国 際的に公開して、人道支援の実務家に対する インパクトを生み出すことを狙った。

3.研究の方法

本研究では、研究組織を、臨地調査班、評価班、広域比較班の3つに区分し、緊急人道支援枠組みのモデルを3段階のプロセスを経て深化させる方法で研究を実施した。

4. 研究成果

本研究の研究成果は、研究組織構成員を執筆者とする英文の研究成果出版(S. Konaka & X.SUN eds. African Studies Monographs, Supplementary Issue No. 53)と日本語の研究成果出版(湖中・太田・孫編『地域研究からみた人道支援: アフリカ遊牧民の現場から問い直す』、昭和堂2018年)により公刊されているが概要は以下の通りである。

本研究は、東アフリカ遊牧社会を対象とし

て、地域研究からみた新しい人道支援の在り 方を探求した。研究組織は人類学、経済学、 教育学等を背景とするアフリカ地域研究者 から学際的に構成されており、研究者と開発 実務経験者が協働している。

わが国の地域研究における人道支援研究の 試みは、おもに東南アジア諸国をフィールド とする研究者によって自然災害を中心に取 り組まれてきた。しかしながら、わが国の地 域研究においては、それに勝るとも劣らない 人道的危機に直面してきたアフリカを対象 とした人道支援の研究はほとんど先例がな い。

人道支援の世界は、普遍主義に立脚してお り、地域的多様性が顧みられることは稀であ った。人道支援においては、国籍、人種、宗 教的信念にかかわらず、公平な態度で被災者 に接するように要求される。しかし、ほとん どの人道支援基準は、それ自体が、人間それ ぞれの多様性をも同質化してしまうはたら きをもっている。しかしながら、具体的な地 域の現場においては、人道支援は、人類普遍 の現象でもなければ、無文化的な現象でもな い。にもかかわらず、人道支援と地域文化の 多様性の関係を探求する試みは極めてわず かしか存在せず、本研究では、地域研究の立 場から、むしろ徹底的に人間の差異を考え抜 くことで、逆に、別の意味での新しい普遍性 を照らし出し、そこから新しい人道支援の在 り方を創り上げていくことを提案している。

このために本研究が案出したのが、接合領 域接近法 (articulation sphere approach) である。接合領域とは、グローバルなものと ローカルなものとの間の中間に位置し、両者 のネットワークを接続する領域を意味する。 この方法が注目するのは、伝統的な意味での 文化ではなく、接合による「変化が生じた後」 に生じた様々な現象である。本書は、人道支 援のローカライズを提唱するが、それは固定 的なステレオタイプ・イメージとしての文化 ではなく、この接合領域へのローカライズを 意味する。このような問題意識のもとに、本 研究は、グローバルな人道支援の下で、実際 の遊牧社会の現場では一体何が起こってい たのかを臨地研究成果に基づいて報告した。 その多くは、グローバルな人道支援の物語と 遊牧社会の現場でみられる実態との間には 大きなギャップがあることを示している。例 えば、ケニアの遊牧民が、援助機関のスタッ フが帰った後、受け取った食料を一カ所に集 めて、彼ら独自の配分方法により全世帯に再 分配したという孫の報告は、現場からみた人 道支援のあり方について、私たちに再考を迫 るものである。

本研究では、海外の研究者や実務家と討議を繰り返す過程で、テントや緊急医薬品のように共同体の外部からもちこまれる目に見える保護の領域に対して、共同体レヴェルの見えない保護の領域を、「内的シェルター(inner shelter)」として概念化した。そし

て、地域共同体が創り上げてきた内的シェルターと外部介入による外からのシェルター を相補的に組み合わせていくアプローチを 提唱した。

さらに、本研究は、西洋社会流の人道主義や人道支援を唯一の正しい規範とし、それを非西洋世界に押しつけるような普遍主義ではなく、非西洋社会の多様性を包摂できるようなより広い意味での普遍主義のあり方を展望している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

[雑誌論文](計 12 件)

Shinya KONAKA, 2017. Introduction: The Articulation-Sphere Approach to Humanitarian Assistance to East African Pastoralists. African Study Monographs. Supplementary issue,53: 1-17 [査読有].

<u>Xiaogang SUN</u>, 2017. Strengthening Local Safety Nets as a Key to Enhancing the Food Security of Pastoralists in East Africa: A Case Study of the Rendille of Northern Kenya. *African Study Monographs.* Supplementary issue,53: 19-33 [査読有].

Go SHIMADA & Miki MOTOMURA, 2017. Building Resilience As a Counter-Measure to Climate Change And Natural Disasters in Africa: A Case Study From a Project in Pastoralist and Agro-Pastralist Communities in Borena, in The Oromia Region Of Ethiopia. African Study Monographs. Supplementary issue,53: 35-51 [查読有].

<u>Shinya KONAKA</u>, 2017. Articulation between the Material Culture of East African Pastoralists and Non-Food Items of Humanitarian Assistance. *African Study Monographs*. *Supplementary issue*,83:53-67 [査読有].

Itsuhiro HAZAMA, 2017. Violence and Medical Pluralism among the Karimojong and the Dodoth in Northeastern Uganda. *African Study Monographs*. *Supplementary issue*,53:69-84 [査読有].

Masako YONEKAWA, 2017. Political and Military (mis)Use of Humanitarian Action and Aid: Since the End of the Cold War and the Onset of "the War on Terror." African Study Monographs. Supplementary issue,53:85-101 [查読有].

Rumiko MURAO, 2017. The Daily Life Strategies of Small-Scale Farmers after Prolonged War: Long-Term Influence of Humanitarian Assistance. African Study Monographs. Supplementary issue,53: 105-116 [査読有].

Naoki MATSUURA, 2017. Humanitarian Assistance from the Viewpoint of Hunter-Gatherer Studies: Cases of Central African Forest Foragers. African Study Monographs. Supplementary issue,53: 117-129 [査読有].

Yoshinori MOCHIZUKI, 2017. Research Note

The Livelihood Strategies of South Sudanese in a Refugee Settlement in Uganda. *African Study Monographs. Supplementary issue*,53: 131-139 [査読有].

Saverio KRÄTLI, 2017. Comment 1: Pastoral Localization of Humanitarian Aid: The Need to Re-Qualify the Pastoral Context. *African Study Monographs.* Supplementary issue,53: 141-146 [查読有].

Sada MIRE, 2017. Comment 2 The Role of Cultural Heritage in the Basic Needs of East African Pastoralists. *African Study Monographs. Supplementary issue*,53: 147-157 [査読有].

Mesfin Metekia TAFFESE, 2017. Comment 3 Ethnoveterinary and Slaughtering Practices can Contribute to Development and Drought Response in Pastoral Areas. African Study Monographs. Supplementary issue,53: 159-164 [査読有].

[学会発表](計 22 件)

Shinya KONAKA, 2017. Introduction: Humanitarian Assistance from the Perspective of East African Nomads: Towards its Localization. Uganda - Japan Joint International Workshop in Kampala, Situating Universal Concepts to the Reality of Marginalized African Nomads.

<u>Xiaogang SUN</u>, 2017. The Challenge of Food Aid and Food Security among Pastoralists of East Africa. Uganda - Japan Joint International Workshop in Kampala, Situating Universal Concepts to the Reality of Marginalized African Nomads.

Itsuhiro HAZAMA, 2017. "Peace Can Begin in the Clinic": Health Diplomacy Reconsidered in the Karamoja Sub-Region of Uganda. Uganda - Japan Joint International Workshop in Kampala, Situating Universal Concepts to the Reality of Marginalized African Nomads.

Shinya KONAKA, 2017. Humanitarian Relief Commodities Seen from Material Culture of East African Nomads. Uganda - Japan Joint International Workshop in Kampala, Situating Universal Concepts to the Reality of Marginalized African Nomads.

Yoshinori MOCHIZUKI, 2017. The Livelihood Strategies of South Sudanese in a Refugee Settlement in Uganda. Uganda - Japan Joint International Workshop in Kampala, Situating Universal Concepts to the Reality of Marginalized African Nomads.

Shinya KONAKA, 2017. The Material Culture of Evacuation: Ontological Reflections on East African Pastoral IDPs and Humanitarian Assistance. CASCA/IUAES 2017 Conference in Ottawa Panel: LL-NAS07 < order OR stability>.

<u>湖中真哉</u>2016「東アフリカ牧畜社会における人道支援枠組みのローカライズ」日本アフリカ学会第 53 回学術大会フォーラム「東アフリカ牧畜社会における人道支援枠組みのローカライズ」報告。

<u>孫暁剛</u>2016「ケニア北部の牧畜民を対象とした食料援助の実態と問題点」日本アフリカ学会第 53 回学術大会フォーラム「東アフリカ牧畜社会における人道支援枠組みのローカライズ」報告。

<u>波佐間逸博</u>2016「紛争後のウガンダ・ナイル系牧畜社会における創造的ヘルスケア・ローカリティ」日本アフリカ学会第 53 回学術大会フォーラム「東アフリカ牧畜社会における人道支援枠組みのローカライズ」報告。

米川正子 2016「対テロ戦争における人道支援 東アフリカとアフリカの角の事例から」日本アフリカ学会第 53 回学術大会フォーラム「東アフリカ牧畜社会における人道支援枠組みのローカライズ」報告。

<u>村尾るみこ</u>2016「アフリカ南部農村における緊急人道支援の影響」日本アフリカ学会第53回学術大会フォーラム「東アフリカ牧畜社会における人道支援枠組みのローカライズ」報告。

<u>Shinya KONAKA</u>, 2015. Introduction: The Articulation Sphere Approach.

International Workshop, Reconsidering the Basic Human Needs for the East African Pastoralists: Towards the Localization of Humanitarian Assistance.

<u>Xiaogang SUN</u>, 2015. Strengthening Local Safety Nets as a Key for Improving Food Security of Pastoralists in East Africa. International Workshop, Reconsidering the Basic Human Needs for the East African Pastoralists: Towards the Localization of Humanitarian Assistance.

Itsuhiro HAZAMA, 2015. Livelihood and Healthcare in East African Pastoral Societies. International Workshop, Reconsidering the Basic Human Needs for the East African Pastoralists: Towards the Localization of Humanitarian Assistance.

Naoki NAITO, 2015. Embodying the Space of Global Humanitarian Assistance: Food Preference and Socio-economic Activities of Somali Protracted Refugees in Dadaab Refugee Camps, Kenya. International Workshop, Reconsidering the Basic Human Needs for the East African Pastoralists: Towards the Localization of Humanitarian Assistance.

Shinya KONAKA, 2015. The Articulation between Material Culture of East African Pastoralists and Non Food Items of Humanitarian Assistance. International Workshop, Reconsidering the Basic Human Needs for the East African Pastoralists: Towards the Localization of Humanitarian Assistance.

Yoshinori MOCHIZUKI, 2015. The Life Strategies of South Sudanese in a Refugee Settlement in Uganda. International Workshop, Reconsidering the Basic Human Needs for the East African Pastoralists: Towards the Localization of Humanitarian Assistance.

Go SHIMADA, 2015. An Empirical Analysis of a Project on Commercialization of Smallholders' Horticultural Crops and Poverty Reduction: What are Implications Human Security? to International Workshop, Reconsidering the Basic Human Needs for the East African Pastoralists: Towards the Localization of Humanitarian Assistance.

Masako YONEKAWA. 2015. Aid Workers' Challenge: Access to Vulnerable Groups. International Workshop, Reconsidering the

Basic Human Needs for the East African Pastoralists: Towards the Localization of Humanitarian Assistance.

Naoki MATSUURA. 2015. Humanitarian Assistance from the Viewpoint of Hunter-Gatherer Studies. International Workshop, Reconsidering the Basic Human Needs for the East African Pastoralists: Towards the Localization of Humanitarian Assistance.

②Seiji UTSUMI. 2015. The Third Countries Resettlement of Somali Refugees in Kenya: Focus on the Process and Cultural Orientation. International Workshop, Reconsidering the Basic Human Needs for the East African Pastoralists: Towards the Localization of Humanitarian Assistance.

Rumiko MURAO, 2015. The Daily Life Strategies of Small-scale Farmers after Prolonged War: Long-Term Influence of Humanitarian Assistance. International Workshop, Reconsidering the Basic Human Needs for the East African Pastoralists: Towards the Localization of Humanitarian Assistance.

〔図書〕(計 13 件)

<u>湖中真哉</u>2018「人道支援におけるグローバルとローカルの接合 東アフリカ遊牧社会の現場から」湖中真哉、太田至、孫暁剛(編)『地域研究からみた人道支援』、昭和堂、pp.1-23.

__<u>孫暁剛</u>2018「食糧援助からの脱却を目指して ケニア北部の遊牧民レンディーレの食糧確保」湖中真哉、太田至、孫暁剛(編)『地域研究からみた人道支援』、昭和堂、pp.27-49.

望月良憲 2018「元遊牧民の多角的な生計戦略 ウガンダの難民居住地における南スーダン難民の実践」湖中真哉、太田至、孫暁剛(編)『地域研究からみた人道支援』、昭和堂、pp.51-64.

<u>湖中真哉</u>2018「物質文化と配給生活物資の相補的関係 東アフリカ遊牧社会における国内避難民のモノの世界」湖中真哉、太田至、孫暁剛(編)『地域研究からみた人道支援』、昭和堂、pp.65-90.

<u>波佐間逸博</u>2018「武力に対抗する癒し ウガンダ・ナイル系遊牧民の多文化医療」湖中 真哉、太田至、孫暁剛(編)『地域研究から みた人道支援』、昭和堂、pp.91-114. メスフィン・メテキア・タフェセ 2018「科学知と在来知の協働 エチオピア・オロモ系遊牧民の民族獣医学的実践」湖中真哉、太田至、孫暁剛(編)『地域研究からみた人道支援』、昭和堂、pp.115-120.

<u>内海成治</u>2018「教育難民化を考える ケニアのカクマ難民キャンプにおける教育の状況と課題」湖中真哉、太田至、孫暁剛(編)『地域研究からみた人道支援』、昭和堂、pp.121-147.

サダ・マイヤー2018「ベーシック・ヒューマン・ニーズとしての文化遺産 ソマリランドの生活文化と考古学的発見」湖中真哉、太田至、孫暁剛(編)『地域研究からみた人道支援』、昭和堂、pp.175-178.

<u>島田剛・本村美紀 2018「レジリエントな社会の構築とソーシャル・キャピタル</u>エチオピアの遊牧民・農牧民コミュニティにおける旱魃対策支援」湖中真哉、太田至、孫暁剛(編)『地域研究からみた人道支援』、昭和堂、pp.189-211.

<u>村尾るみこ</u>2018「紛争後の農業再構築 アンゴラの農耕民がとった新生活戦略」湖中真哉、太田至、孫暁剛(編)『地域研究からみた人道支援』、昭和堂、pp.213-231.

<u>松浦直毅</u>2018「困難に直面する森の民 アフリカ熱帯林に住む狩猟採集民の人道危機」湖中真哉、太田至、孫暁剛(編)『地域研究からみた人道支援』、昭和堂、pp.233-249.

サヴェリオ・クラトゥリ 2018「人道支援を 遊牧的にローカライズする 遊牧社会の脈 絡で再定義する試み」湖中真哉、太田至、孫 暁剛(編)『地域研究からみた人道支援』、 昭和堂、pp.251-262.

湖中真哉 2018「東アフリカ遊牧社会の現場からみた新しい人道支援モデルに向けて」湖中真哉、太田至、孫暁剛(編)『地域研究からみた人道支援』、昭和堂、pp.263-281.

太田至 2018「人道支援における協働に向けて」湖中真哉、太田至、孫暁剛(編)『地域研究からみた人道支援』「あとがき 人道支援における協働に向けて」湖中真哉、太田至、孫暁剛(編)『地域研究からみた人道支援』、昭和堂、pp.283-290.

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

接合領域接近法による東アフリカ牧畜社会における緊急人道支援枠組みのローカライズ(公開2018年10月まで)

日本語版

http://www.localizationtoafrica.org 英語版

http://www.localizationtoafrica.org/?lang=en

6.研究組織

(1)研究代表者

湖中 真哉(KONAKA, Shinya) 静岡県立大学・国際関係学部・教授 研究者番号:30275101

(2)研究分担者

孫 暁剛 (SUN, Xiaogang) 京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究 科・特任准教授 研究者番号:20402753

波佐間 逸博(HAZAMA, Itsuhiro) 長崎大学・多文化社会学部・ 准教授 研究者番号: 20547997

松浦 直毅 (MATUURA, Naoki) 静岡県立大学・国際関係学部・助教 研究者番号:60527894

内藤 直樹 (NAITO, Naoki) 徳島大学・大学院社会産業理工学研究部(社 会総合科学域)・准教授 研究者番号:70467421

島田 剛 (SHIMADA, Go) 明治大学・情報コミュニケーション学部・専 任准教授 研究者番号:90745572

太田 至 (OHTA, Itaru) 京都大学・アフリカ地域研究資料センター・ 教授

研究者番号:60191938

(3)連携研究者

内海 成治(UTSUMI, Seiji) 京都女子大学・発達教育学部・教授 研究者番号:80283711

村尾 るみこ (MURAO, Rumiko) 立教大学・21 世紀社会デザイン研究科・ 助 教

研究者番号:10467425

(4)研究協力者

米川 正子 (YONEKAWA, Masako)

望月 良憲 (MOCHIZUKI, Yoshinori)

クラトゥリ サヴェリオ (KRÄTLI, Saverio)

マイヤー サダ (MIRE, Sara)

タフェセ メスフィン・メテキア (TAFFESE, Mesfin Metekia)